

# 「経済社会研究」 執筆要領

平成24年4月1日改訂

「経済社会研究」編集委員会

「経済社会研究 執筆要領（以下「執筆要領」という。）は、「経済社会研究 投稿規定（以下「投稿規定」という。）（平成19年5月9日改訂）第7(1)の規定に基づき定めるものである。

本誌に投稿する原稿については、本執筆要領に従い作成するようにされたい。投稿原稿の作成に当たっては、投稿規程第7に定めるところに従って作成することとされているが、特に次の点に留意されたい。

原稿の長さは、論文については日本語の場合は4万字以内、英語の場合は4万語以内とする。研究ノート、資料、翻訳については日本語の場合は2万字以内、英語の場合は2万語以内とする。書評については日本語の場合は4千字以内、英語の場合は2千語以内とする。

また、論文および研究ノートについては、日本語の場合は400字程度、英語の場合は200語程度の要約（Abstract）を付けること。

この場合、原稿の長さには、表題、要約等は含めず、図、表、写真はこれに含めるものとする。

## I 執筆の表記要領

### 1 目次について

原稿には、できるかぎり目次を付けること。論文の構成は、章、節、項立てとし、章の表記は時計文字としてよいが、本文の見出しの数字はアラビア数字を用いて1, (1), ①の順になるべくするようにすること。

### 2 カッコ、傍点などの記号について

- (1) 句読点は「。」(マル)と「,」(コンマ)とし、原則として日本文での句点で「.」(ピリオド)を用いるのは避けること。
- (2) 日本文での“ ”(ダブルアポ)の使用は避け、< >(山パーレン)か「 」(カギカッコ)を用いること。
- (3) ( )内のカッコは(…( )…)とせず、(…[ ]…)というように表記すること。
- (4) 『 』(二重カギカッコ)は、「 」内でさらにカギカッコを使用するとき、書名を示す場合とにのみ用いること。
- (5) 傍点は、当該文字の上につけること。

- (6) 以上の記号は、いずれも1マスに1つずつ表記すること。
- (7) 引用文などで文の途中を省略するときの……(ナカグロ)は、ナカグロの数が6つで、1マスに3つずつ記入すること。

### 3 図・表について

図・表には、題(例：世界各国の二酸化炭素排出量)および通し番号(図 1, 図 2, …, 表 1, 表 2, … とアラビア数字で)を付すこと。原則として、図の場合には図下に、表の場合には上に記すこと。

### 4 注について

- (1) 注は、脚注、末注の何れを用いてもよいこととする。こと。
- (2) 末注を用いる場合は、本文中の注の番号を一貫させるようにし、[参考文献]の前に(1), (2), (3)…と一括して掲載すること。
- (3) 注の番号は、当該文字の右肩上に付けること。また、句読点のところには注の番号が来るときには、次のように文字と(カギカッコの場合には、カギカッコと)句読点の間の上に注の番号を入れること。

[例] ……である<sup>(1)</sup>。

[例] ……計画<sup>(2)</sup>,

特に当該注が、そのパラグラフ全体にかかることを示したいときには、次のようにマルの後に注の番号を入れてもよい。

[例] ……である。<sup>(3)</sup>

- (4) 特に必要があつて(学会報告に対するコメントへの謝辞など)番号以外の表記で注を示す場合には、※(コメ印)でなく\* (アスタリスク)を使用のこと。

### 5 引用文献などの表記要領

引用文献は、論文の最後に[参考文献]として一括して示し、文献番号を[1], [2]と付けて、次の要領のように記入すること。文献リストは、原則として著者名のファミリー・ネームのアルファベット順に並べること。

#### (1) 邦語文献

##### (a) 単行書

著者名『書名』 出版社, 発行年。(出版社名は略称としない。)

[例] 野尻武敏『選択の時代——多元化社会と経済体制』新評論, 1980年。

##### (b) 雑誌掲載論文

執筆者名「論文名」, 『雑誌名』 <発行大学あるいは発行機関> 第×号第××号, ○○○○年○月, ×-××ページ。

[例] 野尻武敏「協調行動——西ドイツの実験——」, 『国民経済雑誌』 <神戸大学> 第127巻第5号, 1973年5月, 1-20ページ。

##### (c) 論文集などに所収の論文

執筆者名「論文名」, 編著者名 編『書名』出版社, 発行年, ×-××ページ。

[例] 野間俊威「経済的福祉の極大と体制比較」, 気賀健三編『比較経済体制論講義』青林書院新社, 1972年, 127-158 ページ。

[注意]

- ① 合併号は, 第2, 3号でなく, 第2・3号と表記すること。
- ② 同一タイトルで(1), (2)というように継続するものについては, 第31巻第5号; 同第6号, 1954年2月; 1954年11月, 参照というように表記すること。
- ③ 注などで, 同一書名, 同一論文名が続いて出てくるときには, 次のように表記すること。

[例] 玄海太郎, 前掲書(または, 前掲論文), 32 ページ。

前掲書や前掲論文を二重カギカッコやカギカッコで囲まないこと。

(2) 外国語文献

(a) 単行書

著者名, 書名(イタリックで), 出版社, 発行地, 発行年。

訳のある場合は, ( )内に訳者名の後に「訳」とし, その他は邦語の単行書と同じ要領で表記すること。

[例] Keynes, J. M., *The General Theory of Employment, Interest and Money*, Macmillan, London, 1936. (塩野谷九十九訳『雇傭・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社, 1941年)

(b) 雑誌掲載論文

執筆者名, “論文名,” 雑誌名(イタリックで), Vol. ×, No. ×, ×月×年, pp. ××-××.

[例] Schiller, K., “Stability and Growth as Objectives of Economic Policy,” *The German Economic Review*, Vol. 5, No. 3, Sept. 1967, pp. 1-20.

(c) 論文集など

執筆者名, “論文名,” in 編著者 ed., 書名(イタリックで), 出版社, 発行地, 発行年, pp. ×-××.

[例] Hurwicz, L., “Centralization and Decentralization in Economic Processes,” in Eckstein, A. ed., *Comparison of Economic Systems: Theoretical and Methodological Approaches*, University of California Press, Berkeley, 1971, pp. 79-102.

(d) 欧文以外の言語(中国語, 韓国語など)の文献を引用した場合, 原語で書誌情報を書いた後に( )に論文のタイトルの日本語訳などを入れる。

[例] 潘鈞(1995)「中日同形詞詞義差異原因浅析」『日語学習と研究』3, 19-23. (潘鈞(1995)「論文のタイトルの日本語分析」『雑誌名の日本語訳』3, 19-23. )

[注意]

- ① 執筆者に続けて,(コンマ)をつけてから”(ダブルアポ)がつく。
- ② 特に必要があって, ‘ ’ (アポ)を使う場合は, 次のようにコンマはアポの次に位置する。

[例] ‘ abc ’,

(3) CD-ROM, ディスケットなどの電子出版物

CD-ROM やディスクなどの電子出版物を使用した場合には, 邦語文献, ないしは外国語文献と同じ要領で表記の上, タイトル(および版表示)の次に“CD-ROM”, “ディスク”, “diskette” と記述すること。

著者名『書名』ないしは書名(イタリックで), CD-ROM(またはディスク, diskette), 出版社, 発行地, 発行年.

[例] 日本貿易振興会, *Trade tie-up promotion program* (TTTP), CD-ROM, 日本貿易振興会, 東京, 2001年。

*The Oxford English dictionary*, 2d ed., CD-ROM, Oxford University Press, Oxford 1992.

Galloway, S. “TV takes the fall in violence poll,” *Hollywood Reporter* 23 July : *Predicasts F and S plus text : United States*, CD-ROM, Silver Platter, Oct. 1993.

(4) インターネット

通常の文献表記方法と同じであるが, 電子出版年(月日)を資料名の後に表記し, URL, およびアクセスした年月日を一番最後に表記すること。

[例] 経済産業省国際経済課『経済連携協定についての考え方と最近の動向』  
経済産業省, 2002年5月, [http://www.meti.go.jp/policy/trade\\_policy1/epa/html/epa\\_0201.html](http://www.meti.go.jp/policy/trade_policy1/epa/html/epa_0201.html), 検索日: 2002年5月11日。

McCoy, T. L., *The Free Trade Area of the Americas : Opportunities and challenges for Florida*, University of Florida, Center for Latin American Studies, Gainesville, Florida, Mar. 2001, pp.1-9, [http://www.latam.ufl.edu/publications/ftaa\\_paper.html](http://www.latam.ufl.edu/publications/ftaa_paper.html), visited Aug. 7, 2002.

(5) 一般的な注意

- (a) 雑誌名などの The や Die などは省略しないこと。
- (b) 注などで, *op.cit.*や *ibid.*などを用いるときは, イタリック体になり, カンマを打ってページを表記すること。
- (c) 訳書のある場合は, ( )内に訳者名の後に「訳」として, その他は邦語の単行書と同じ要領で表記すること。具体的には, 外国語文献の(a)を参照のこと。

(d) 外国の引用文献を一括して示す場合、著者名(執筆者名)は、次のように表記すること。ファミリー・ネームが最初に来て、カンマの後にファースト・ネームなどを略記して続ける。共著あるいは共同執筆の場合には、一人目以外はファースト・ネームなどを略記し、その後ファミリー・ネームを続ける。また、最後の人名の前には **and** などを入れる。

(e) 引用文献について、個々の注で引用箇所を示すときには、次のように表記すること。

著者名(執筆者名) [ ] , ××ページ。

[例] Keynes [1] , p. 35. (邦訳 35 ページ)

(f) ピリオドやカンマの位置に注意すること。

## II 原稿の提出について

- 1 原稿は、ワープロ・ソフトにて A4 用紙に印刷したもの、およびフロッピーあるいは CD などの電子化された媒体の両方を提出すること。その際、使用したワープロ・ソフト名を明記すること。
- 2 原稿は、投稿規定の定めるところにより、論文、研究ノート、資料、翻訳、報告、書評の何れなのかを表紙に記入して提出すること。
- 3 所定の原稿送付状に外国語タイトルを含む必要事項を記入の上、これを原稿に添付して提出すること。
- 4 特別な字体や特別な記号を指定する場合には、赤鉛筆や赤ボールペンなどでその旨を指定して提出すること。
- 5 図、表、写真などは希望の挿入箇所を指定すること。写真は原則として白黒とし、鮮明な画像のものであること。

## III 原稿の校正について

- 1 校正は、配布された校正記号表を参考にして、各自の責任において、正確かつ迅速に行うこと。校正は、原則として 3 校で校了とする。
- 2 校正の際に、原稿を改めることは避けること。万一訂正するとしても、初校の段階に止め、当該パラグラフの位置が変わらないように留意すること。
- 3 もしタイトルを訂正する場合には、必ず編集委員会に申し出て、その許可を得てから訂正すること。
- 4 表紙、裏表紙のタイトル、執筆者の氏名の部分の校正も、執筆者の責任の範囲であること。

以上